

平成29年5月18日
国立大学法人帯広畜産大学

軍事的安全保障に関する研究について

このたび、本学としての軍事的安全保障に関する研究について、以下のとおり取り扱いが決定いたしましたのでご報告いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

軍事的安全保障研究については、本年3月24日、日本学術会議において「軍事的安全保障研究に関する声明」が発出されたところである。この声明においては、①研究の入り口で研究資金の出所等に関する慎重な判断が求められること、②各研究機関は、軍事的安全保障研究と見なされる可能性のある研究について、その適切性を技術的・倫理的に審査制度を設けるべきであること、③学協会等において、それぞれの学術分野の性格に応じて、ガイドライン等を設定することも求められることなどの提言がなされている。

学問研究はその扱い方によって平和目的にも軍事目的にも利用される可能性（デュアルユース）が本質的に存在する。また、軍事的安全保障研究であったとしても防衛目的であれば許容されるべきであるという考え方もある。軍事的安全保障研究について本学がどのように関与するかについては、本学のみならず各分野の学会など研究者コミュニティにおいて真摯かつ慎重な議論が必要であることから、現時点において本学としての原則的な指針を出すことは拙速であると考えている。

ただし、防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」研究予算については、今年度公募対象となる研究テーマが本学研究者の研究分野の直接の対象になることは少ないものと考えられるが、①将来の装備開発につなげるという明確な目的に沿って公募が行われること、②外部の専門家ではなく同庁内部の職員が研究中の進捗管理を行うとされているなど問題も多く、また学問の自由が確実に担保されているとは判断できないことから、少なくとも本年度は応募を認めないこととする。

軍事的安全保障研究については、引き続き学会など研究者コミュニティの議論の動向を見据えつつ、本学としても研究推進本部を中心に、関係者の様々な意見を参考にしながら、真摯かつ慎重に議論を重ね、適当な時期に然るべき結論を出すこととする。

【問い合わせ先】

国立大学法人帯広畜産大学
研究支援課長 矢島 大彰
電話：0155-49-5285
FAX：0155-49-5289